

第6回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：平成28年9月9日（金） 14：00～16：00
 2. 場 所：千曲市河川事務所2階 大会議室
 3. 出席者：平林座長、豊田委員、北野委員、傳田委員、
福島委員、新家委員（竹村代理）、中山委員（山崎代理）、
上平委員（松本代理）、小根澤委員、峰村委員（藤澤代理）、
吉池委員、富岡委員、依田委員、堤委員
4. 議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「*」質疑、「→」回答、「☆」意見
- 1) 資料1 これまでの検討結果の概要について
特になし
 - 2) 資料2 第5回検討会における指摘と対応事項について
☆砂礫河原再生は深掘れの緩和効果も期待されることから、管理基準として治水的な対策効果も把握出来るよう、深掘れ部の断面変化の把握もした方が良い
 - 3) 資料3 モニタリング結果について
【H27 施工箇所：植生図作成調査】
*H27 施工箇所においてシロバナシナガワハギが繁茂しており、当初の予測と違うと思うが、要因は分かっているのか。
→シロバナシナガワハギが繁茂しており、カワラヨモギの生育範囲が奪われてしまっているのは望ましい状態ではないと考えている。明確な要因は分かっていないが、H27 施工箇所については春季及び夏季の調査結果であり、施工後に一度も大規模な出水がきていないことも影響しているかもしれない。委員からのご意見も頂きながら、検討していく。
☆シロバナシナガワハギが繁茂する要因についての知見があれば参考にしてはどうか。また、施工箇所での冠水の履歴が重要なのであればそのような情報についても今後合わせて整理したほうが良いのではないかと。
- 【植生図作成調査：今後のモニタリング調査方法】
- ☆H28 及び H29 においても出水期はあるのではないかと。また、H29 は調査を実施しないこととなっているが、H28 の調査から施工まで1年間開くことになるため、H29 においても施工の直前に調査を実施するのが妥当ではないかと。
 - H28 及び H29 においても出水期を追記する。また、H29 においては H28 施工箇所と同様に簡易的な調査をすることとしたい。

【底生動物調査・付着藻類調査】

☆底生動物や付着藻類は生活環が非常に短い生物であり、出水直後に調査を実施した場合は、流量の変化による影響を受けた調査結果になると考えられる。そのため、水位変動の履歴等も合わせて示してほしい。

【H28 施工箇所：湧水調査】

☆水温及び水質の調査結果より、水辺の楽校のたまりである左 2 は本川とは異なると考えられ、本川からの伏流を期待した導流路から入水がない可能性もあり、この要因について調査が必要。

【モニタリング調査全般】

☆養蜂協会としては、特にハリエンジュの伐採に関心がある。近年の河川の氾濫を見ると河川管理上、伐採はやむを得ないとも思うが、長野県は全国一の養蜂県であり、養蜂家の立場も考慮した事業を進めてほしい。

4)資料 4 平成 28 年度の出水報告について

☆洪水後の状況把握は、ドローンだと上空から撮影できて状況を把握し易いので、利用について今後検討頂きたい。

5)資料 5 平成 28 年度掘削予定箇所について

*施工時に発生する掘削土砂は、堤防の強化以外にどの様に処理する予定か？

→H26 年度施工と同様に冠着橋左岸に仮置きする事を考えている。

*H28 年度施工箇所は、水辺の楽校もあり、多くの市民が立ち入るケースも多く、関心のある人も多いと思われるが、市民への情報提供として何を考えているか？

→H26 年度施工でも千曲市の広報で掲載して頂いており、その様な取り組みや現地に見板などを設置するなど、千曲市と相談しながら進める予定である。

☆現時点の資料では水中部の断面がないが、砂礫河原再生は治水上の洗掘防止にも役立つため、洗掘緩和効果の把握として水の中も数測線は計測した方が良い。

☆この地域にはたまり、ワンドがあり、重要だと言うことを市民に理解してもらう為の方策が必要ではないか

☆H26、H27 の施工箇所ではコチドリなどの鳥類が集まってきていることから、H28 年度施工で予想される「砂礫河原の再生が始まっている」事を市民に情報提供しても良いのではないか？

*掘削土の運搬は、遊歩道がある他、過去に水辺の楽校へ伏流して導流し易い工事も行っ

ていることからこれらへの配慮が必要ではないか？

→土砂の運搬は、導流路は養生しながら実施する他、千曲市と協議しながら進める。

6)資料 6 平成 29 年度掘削予定箇所について

☆古舟橋だけでなく、102k 付近でも河床が低下しており、護岸基礎への安全性を確認した方が良い。

☆滞筋部を埋めるという件について魚にどのような影響が出るか不明であるが、昔の様な砂礫河原を回復する試みについては期待している。

*古舟橋での河床低下が一番心配されるので、資料の通り、ぜひ考慮して検討して欲しい。

また、対策班は、C 案が本命か？

→今後確認して進める。

☆市民の目に触れる場所なので多くの市民の理解の元で進めて行くことが理想であり、市とも協力して進めて欲しい。

→今後確認市と協議ながら実施。

7)資料 7 今後の予定について

◇今後の予定は平成 29 年 2 月に技術部会及びモニタリング部会を考えている。年度末の検討会は今年度より実施しない予定である。